

平成22年度第2回しが子ども体験活動実践交流会

趣 旨

地域において子どもの体験活動支援を行う者が集まり、事例発表や意見交換等を通して子どもたちの体験活動の充実等について協議する。

日 時

平成22年12月9日(木)
13時30分～16時30分

参加者

- ・各市町域・学区域の地域教育協議会委員
 - ・子ども体験活動の支援・協力者
 - ・行政職員、公民館職員等
 - ・学校と地域を結ぶコーディネート担当者
 - ・こどもの体験活動を推進している方や団体
- 計63名

内 容

【パネルディスカッション】13:40～14:50

テーマ：「体験の風をおこそう」

～子どもの体験活動の機会と場の充実のために～

パネラー：希望が丘文化公園副公園長 山中秀記 氏

パネラー：山内エコクラブ 井阪尚司 氏

コーディネーター：生涯学習課社会教育主事 岩脇俊博



希望が丘文化公園の活動より

～苦勞体験が子どもを成長させる～



- ・来園者アンケートから公園で重視したいもの
自然体験活動 スポーツ 野外活動
交流・交歓 健康増進・生きがいづくり
- ・青少年宿泊研修所で共同生活・宿泊体験を通して社会性を養う。自然体験から豊かな人間性を育てる。利用者数は、42,393人(21年度) 24歳以下青少年の利用 84%(県内 36% 県外 64%)
- ・子どもたちの体験不足に対する親の不安・心配があるが親も野外体験が少なくてさせられない。
- ・研修を積んだキャンプリーダーや経験豊富な公園サポーターが活動を支えている。
- ・小さい頃から、暑い、寒い、おなかがすいた、といった基礎的な感覚を実体験することが大切。多少苦しいことがあっても負けない、辛抱できる、大丈夫だと実感させる。
- ・活発な身体活動、他者とのコミュニケーション、自然や人とのふれあい、創意工夫・苦勞、自然環境から「気づく」、他者から「学ぶ」、活動から「身につける」など多様な刺激を受ける。「生きている」ことの喜び、楽しさを実感!

山内エコクラブの活動より

～子どもの向こうに地域の未来が見える～



- ・山内エコクラブで地域資源を生かして自分や地域そして現代の課題が「見える化」する活動をしている。
- ・下図にあるように、感動体験・地域との対話・仲間との協働を大切にしながら「つながり」「自己効力感」「自信と誇り」が持てるようにしている。
- ・「たんけん・発見・ほっとけん」と「ふれあい・見つめあい・高めあい」を合い言葉に「自分」見つけと「ふるさと」探し「ふるさと」を自分の言葉で語れる子ども 子どもと大人による地域活性化（チャンスはこの10年）を進めている。



パネラーの発表のあと以下の内容について参加者と共にディスカッションを行った。

【討議の柱】

- 体験活動の意義・必要性
- 多くの子どもたちが体験するには
- 今、体験活動を進める上での課題は何か

【子ども体験活動の発表】 15:00～15:30

発表団体・事例

- ・ピースマム
- ・ウディーパル余呉
- ・蒲生野考現倶楽部
- ・野洲川冒険大会
- ・あかね通学合宿
- ・滋賀南部森林組合
- ・高島市よえもん道場
- ・琵琶湖博物館 環境学習センター

【情報交換・交流会】 15:40～16:20



- ・参加者全員で自己紹介ゲームや名刺交換を行った。

感想

- ・大人が普通に体験できたこと（自然体験：川か山で遊ぶ、焼き芋を焼くなど）が、現代の子ども達は未経験なので、このような自然体験が人気なのが驚きであった。
- ・本物と出会う体験の大切さを改めて考えさせられました。また、その年代にあった体験とは何かふりかえりたいです。
- ・市のとりくみの弱点を見つけることができた。大切なのはお金や場もあるが、やはり核になる人材だということ、リーダーシップだということを感じた。
- ・行政、NPO他の各活動団体との横のネットワークを深めることが、今の滋賀で一番求められていることではないでしょうか。